

# D22 補足ガイド

- 本ガイドは、D22 マニュアル rev. 3.1 の補足です。本補足ガイドが執筆された時点での最新ソフトウェアは 2.50 となります。

本補足ガイドの元となるマニュアルにつきましては、TC エレクトロニクスまでご連絡ください。

## 最大ディレイタイム

D22 のディレイタイムが、チャンネルあたり最大 5200ms に拡張されました。本体のシリアルナンバーが 2000990 以上の D22 は工場出荷時から最大 5200ms のディレイタイムを使用できます。

シリアルナンバーが 2000990 以下の D22 で使用できる工場出荷時の最大ディレイタイムは 1300ms あるいは 2600ms です。これらの D22 で拡張ディレイタイムを使用するには、本体ハードウェアのアップグレードが必要となります。詳しくは、TC エレクトロニクスまでご連絡ください。

## Frequently Asked Questions

### Q: シリアル・リモートで操作できるパラメータは？

A: プリセット変更、ディレイタイム、バイパスの 3 つを、RS485 / 422 / 232 経由でリモート操作できます。

### Q: プロトコルは？

A: 9600、N、8、1 (9600 baud、ノンパリティ、8ビット、1ストップ) です。

### Q: リモート・プロトコのコマンド・ストラクチャーは？

A: コマンドは #AA、CMD、VALUE <CR> の形式を持ちます。

AA は、D22 の UTILITY ページで設定する本体アドレスを示します。

CMD は、COMMAND (コマンド) を示します。

- PRE : プリセット変更、
- BYP : バイパス
- DEL : ディレイタイム

VALUE は、コマンドで指定されたパラメータの値を示します。

- CMD が PRE の場合 : RAM プリセット番号
- CMD が BYP の場合 : 0 = バイパス・オフ、1 = バイパス・オン
- CMD が DEL の場合 : ディレイタイム

<CR> はキャリッジ・リターンを示します。

### 例 1

#05、PRE、10 <CR> : アドレス 5 の D22 の RAM プリセット 10 番をリコール。

### 例 2

#03、BYP、1 <CR> : アドレス 3 の D22 をバイパス。

全てのコマンドと数字は ASCII を使用します。

### Q: ディレイタイムのデータ長は？

A: ディレイタイムは、D22 で指定したディレイ単位における 10 進数の数字を使用します。RS-485 経由でディレイ単位を変更することはできないため、コマンドを送信する前に、D22 側のディレイ単位が送信側と一致していることを確認する必要があります。

例 1 ディレイ単位が ms の D22 で、10.5ms のディレイタイムを得るための送信データ : #05、DEL、10.5 <CR>

例 2 ディレイ単位がフレームの D22 で、10.5 フレームのディレイタイムを得るための送信データ : #05、DEL、10.5 <CR>

上記の通り、例 1 と 2 では、送信データ自体に違いはありません。

例 3 D22 のディレイ単位が ms で、10.5 フレームのディレイタイムを得たい場合は、1.05 フレームが何 ms になるかを計算し、コマンドを該当する ms で送信する必要があります。

Q: 具体的な例を教えてください。例えば、アドレス 5 の D22 の RAM プリセット 10 番をリコールするには、どのようなデータを送信するのでしょうか。

A: #05、PRE、10 <CR> を 16 進数で示すと、23 30 35 2C 50 52 45 2C 31 30 0D となります。

その他ご質問等ございましたら、TC エレクトロニクスまでお問い合わせください。

**t.c. electronic**  
ULTIMATE SOUND MACHINES